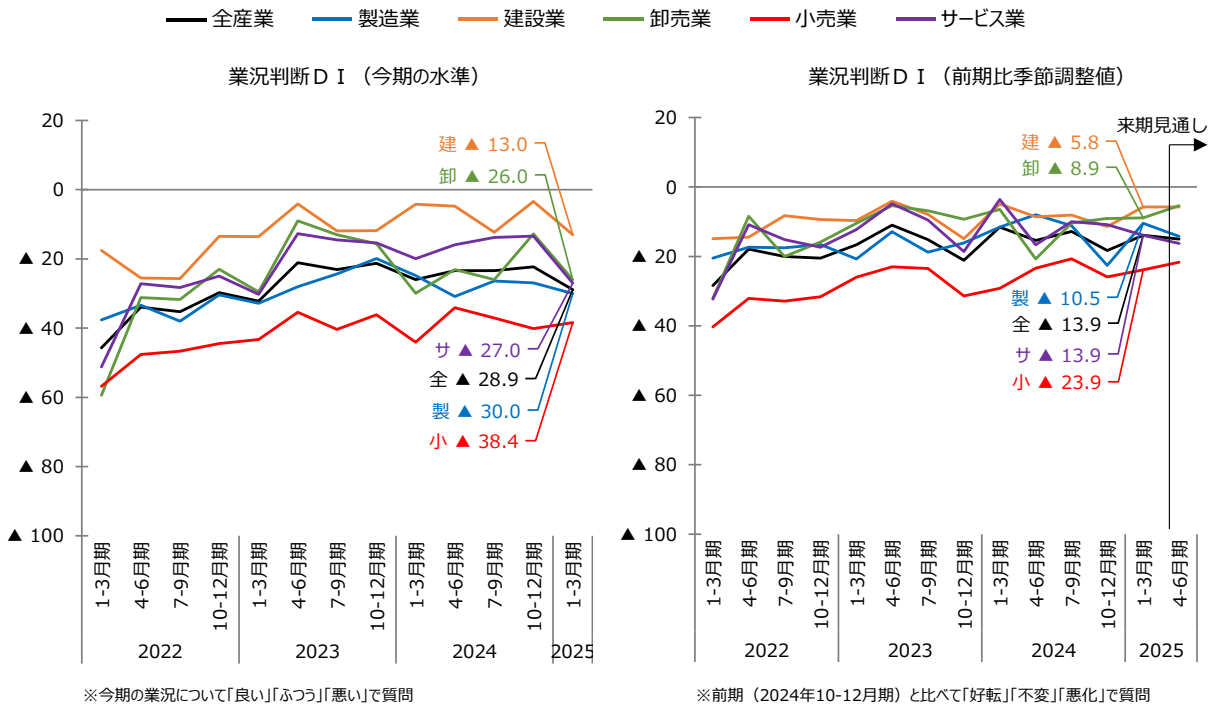


第179回 中小企業景況調査（2025年1-3月期） 四国



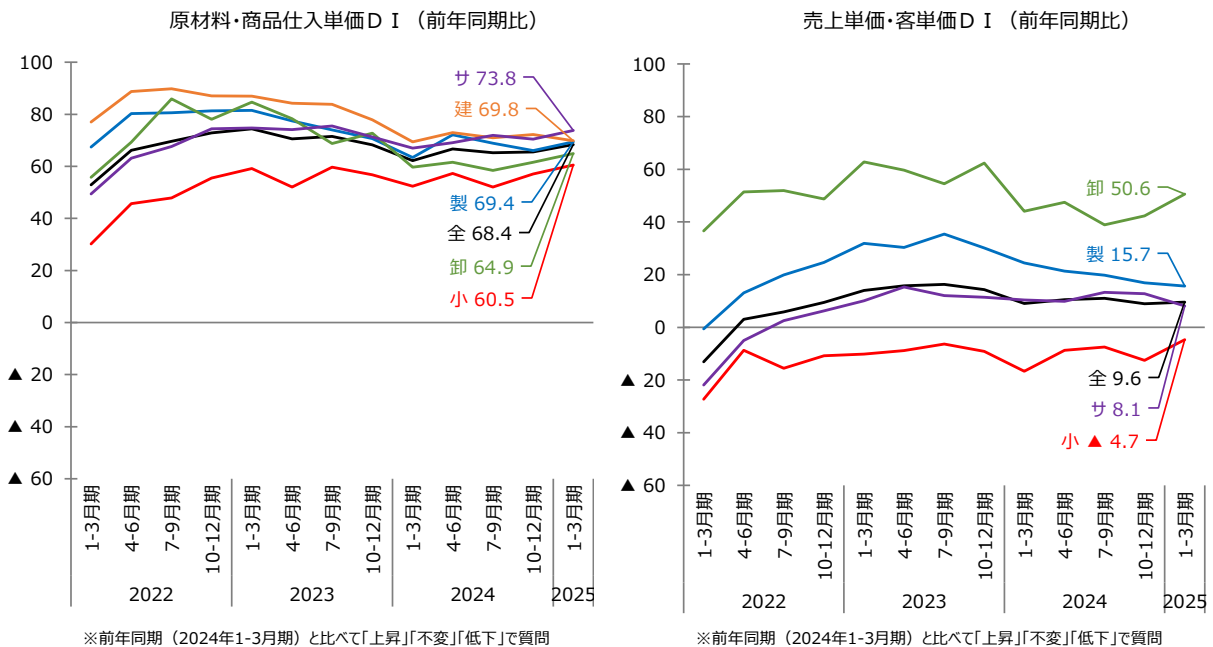
1. 業況感

四国地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2024年10-12月期）より6.6ポイント減の▲28.9と4期ぶりに低下した。産業別にみると、小売業で上昇し、サービス業、卸売業、建設業、製造業で低下した。



2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より2.9ポイント増の68.4と2期連続して上昇した。産業別にみると、小売業、サービス業、製造業、卸売業で上昇し、建設業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より0.7ポイント増の9.6と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、卸売業、小売業で上昇し、サービス業、製造業で低下した。

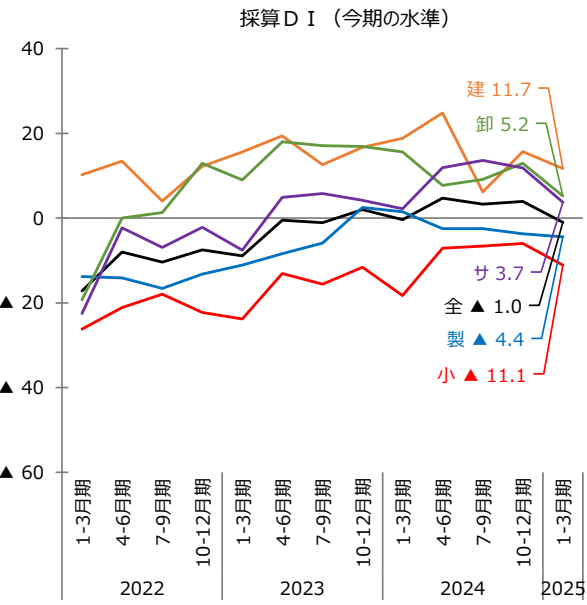


<調査概要> 調査時点は2025年3月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業
今期の調査対象企業数：18,758 有効回答企業数：17,654 有効回答率：94.1% うち、四国：1,265企業

※本資料の集計対象の都道府県は、徳島県、香川県、愛媛県、高知県です。

3. 採算

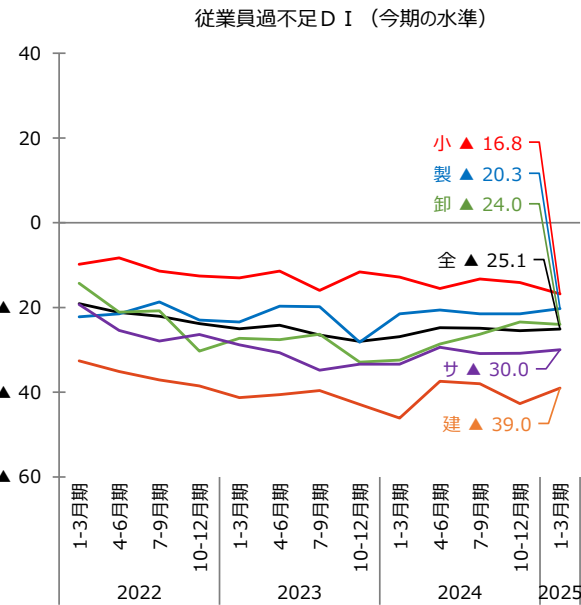
採算DIは、全産業で前期より4.9ポイント減の▲1.0と2期ぶりに低下した。産業別にみると、5産業すべてで低下した。



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問

4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より0.4ポイント増の▲25.1と3期ぶりに上昇した。産業別にみると、建設業、製造業、サービス業で上昇し、小売業、卸売業で低下した。



※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

5. 四国の中小企業の声

業況判断の背景		業種	
現状	春は生の菓物（よもぎ、すぎな、どくだみ等）の入荷数量が減少しそうである。採取者の高齢化と減少によるものである。当社の経営課題は原材料確保であるが、人材不足等のため対応できる体制になっていない。	製造業	生菓・漢方製剤製造業
	物価高に伴って材料価格、人件費は増加しており、しかし施主様の事も考えると請負単価をそれほど上げる訳にはいかないで、高い人件費でも早くきちんとした仕事のできる熟練技術者の重要性を感じた。	建設業	塗装工事業（道路標示・区画線工事業を除く）
	四月の多くの酒類価格改定が控えている。酒類専業なので嗜好品の宿命として需要の停滞は免れない。人口減少と重なり、活力を失うのが辛い。	卸売業	酒類卸売業
	SDGsの取り組みの普及もありリユース品に対する理解や、昨今の物価高の影響もあり需要はある様に思う。半面、制服のジェンダーレス化、体操服のデザイン生地変更が多く、買取の減少、在庫の処分等課題が多い。	小売業	中古品小売業（骨とう品を除く）
	周囲をみていると廃業する同業者が増えてきている。業態転換やニーズにあったものを提供できるようにならないといけない。	サービス業	学習塾
見通し	自社の業況は元請造船所の業績に依存して変動する。今後は船舶建造のピッチが上向き、受注の量と単価の上昇を見込む。人材確保、賃上げした人件費や諸経費・仕入の上昇を吸収する単価向上による価格転嫁が課題。	製造業	船舶製造・修理業
	人員不足のため、現在の人員数なりの仕事量しか受注できない。そのため新規顧客の開拓も難しく、取引業者の高齢化による廃業が増えていくことによって取引業者が減っていくことが心配。	建設業	建築リフォーム工事業
	値上げ交渉を重ね、売上は増加しているものの、全体的なコストアップを補うに至らない状況が続いている。今後も更なるコストアップが予想され、厳しい状況は続く。	卸売業	その他の食料・飲料卸売業
	ガソリン、米、野菜等の価格高騰で、消費が落ち込んでいる中で、高齢者の入院や入所など、客数が伸びなくなっている。何らかの物価対策でもない限り、来期も厳しくなると予想している。	小売業	各種食料品小売業
	個人店舗向けのアプリ開発などが進みニーズが変わってきている。ソフトのサブスクリプション料金の値上がりもあり、それを見込んだ料金の改訂なども検討していかなければならないと感じている。	サービス業	受託開発ソフトウェア業

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。